

6月4日(火)に、第4回復興てらこ屋(伊里前地区)『どうなる伊里前? どうする伊里前? 模型を見ながら話し合おう』を開催し、25名の伊里前地区の皆さんにお集まり頂きました。  
伊里前地区の復興について、既に提示されている計画案を模型を通じて確認し、住民が既に検討している案を共有した上で、今後どうなってほしいのか、どのように進めていけばいいのかについて、住民同士で話し合い、活発な意見交換が行われました。  
今後は、これからの伊里前地区のために、「伊里前まちづくり協議会」が中心となって議論し、意見集約を行いながら進めていくことになりました。



### 1. 模型で伊里前の復興計画案を確認



現在提示されている計画案に基づき、宮城大学平岡研究室が作成した模型を全体で確認し、防潮堤・河川堤防・国道の位置関係を共有しました。

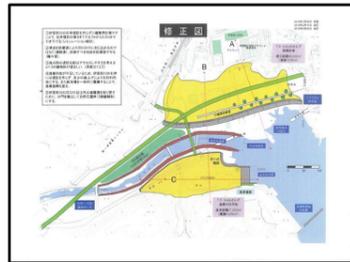
- ・防潮堤 : 高さ8.7m。法面はコンクリート。
- ・河川堤防 : 高さ8.7m。法面はコンクリート。
- ・国道 : 現在の仮の国道とほぼ同じ位置。  
河川堤防を越える付近で高さ約11m。

### 2. 住民が既に考えている案の共有

これからの伊里前地区について既に具体的検討を実施している、伊里前商店会と地元若手有志より、それぞれ代表者が、検討内容について、資料を配布し全体に説明を行いました。



伊里前商店会より紹介された案



地元若手有志より紹介された案

### 3. グループで意見交換

5グループに分かれて、進行役(兼記録役)を中心に話し合いを行いました。約30分間の意見交換実施後、グループをシャッフルして再度20分間、話し合いを行いました。全てのグループで、活発な意見交換が行われました。

意見交換の内容 : ①率直な感想 ②伊里前がこうなってほしい ③これからの進め方



### 4. 意見交換の内容を全体で共有

全5グループの進行役から、全体に向けて、意見交換の内容について共有を行いました。

出された意見は、裏面『グループでの話し合い(まとめ)』をご覧ください。



### 5. 総評(南三陸町役場建設課 三浦孝課長)

住民の皆さんのそれぞれの想いを聴かせて頂いた。貴重な意見を、具体的にどのように形にしていけるのか課題を突き付けられたと感じている。  
志津川のまちづくり協議会が、1年間の話し合いを経て、公園部会を中心にまちづくりのベクトル(方向性)を出し、事業担当部署を含めた話し合いができるようになってきている。  
伊里前でも、住民の意見を集約し今後の方向性を決めていく組織が必要である。既に伊里前には、「伊里前まちづくり協議会」がある。「伊里前まちづくり協議会」を窓口として、伊里前のまちづくりについて住民で議論し、方向性を出して頂きたい。



### 6. 閉会の挨拶(すばらしい歌津をつくる協議会 小野寺寛会長)

周辺の山間部や沿岸部の集落から次男・三男が集まり約320年前に伊里前地区を形成したと言われている。それぞれ実家の農産物・海産物を加工し流通させることで伊里前の町を作ってきた。  
これからの復興でも、どうすれば伊里前の市街地に人・物・金・情報を集め、関わる人が幸せになれるのか、また、歌津全体や高台移転先も含めて、どこにどのような町の機能を置くべきかという視点で、議論をしていく必要がある。  
町民みんなが持つ、「一生懸命この町をなんとかしたい」という想いに大きな差はないと感じた。漁師、商売人、農家、勤め人が手を組み、発展させられる町を作る必要がある。今回の復興てらこ屋で、その1歩目、2歩目を踏み出すことができた。  
伊里前まちづくり協議会が中心となって議論していく中で、他地域の視点などは、すばらしい歌津をつくる協議会で補っていきたい。他人事ではなく、自分のことと認識して、これからもまちづくりに参加してほしい。



裏面につづく

# 『どうなる伊里前？どうする伊里前？模型を見ながら話し合おう』 ＜グループでの話し合い（まとめ）＞

第4回復興てらこ屋(伊里前地区)

2013年6月4日  
 参加住民:25名

## 率直な感想

### ■模型について

- ・模型がビジュアル的で良かった。
- ・町全体の大きさがわかる模型が見たい。
- ・柘沢、管の浜を含めた町全体の図面があれば良い。
- ・高台移転の位置を模型に示してほしい。
- ・模型の高さや位置関係がきちっとしていない。

### ■現在の計画について

- ・模型を見て、国道から海が見えないことがわかった。
- ・防潮堤と国道と堤防で終わる。何が主体かわからない。
- ・生活道路が示されないのでイメージできない。
- ・海への行き方がわからない。
- ・この広さに全部は入れられないのではないかな？
- ・防潮堤と国道の間の谷間(くぼ地)をなくしてほしい。
- ・今の計画ではふるさとがなくなってしまう。

### ■紹介された住民案について ＜伊里前商店会の案について＞

- ・伊里前商店会が紹介した図面で進めてほしい。
- ・商店街としては、防潮堤は必要である。
- ・伊里前だけでなく管の浜、柘沢が1つとなり、まちづくりをした方がよい。町全体を考えてほしい。
- ・商店も大切だが住民の利便性も考えてほしい。
- ・子供が自然と触れ合える場が必要だ。

### ■地元若手有志の案について

- ・地元若手有志の案が全体を考えている。
- ・片側みの河川堤防では許可が下りるのだろうか？
- ・防潮堤の高さが5.5mで本当に安全なのだろうか？
- ・河川堤防の高さがわからない。
- ・若者の案で減るスペースは必要な場所だ。

## ふるさと伊里前への思い。こうなったらいいな。

### ■ふるさとへの愛着

- ・子供たちがまた戻って来るようなまちづくりをしたい。
- ・子供たちが誇りに思える町をつくりたい。
- ・ふるさとは捨てられない。
- ・自然に恵まれた元の伊里前になってほしい。
- ・若い人たちが残れるような魅力的な町にしたい。

### ■海・川・自然との関わり

- ・自然の地形を活かして復興すべきだ。
- ・浜を残してほしい。
- ・磯場を確保する必要がある。
- ・直接海に入れる場所をつくるべきだ。
- ・遊歩道をつくるなど、海に自由に行けるようにする。
- ・町や家から海が見えるの心配だ。
- ・魚竜館の前付近にふれあいの渚をつくれないうか。
- ・アサリ掘りなど子供が自然と触れ合える場が必要だ。
- ・川とふれあうまちづくりが未来に必要である。
- ・高台移転後も桜や緑を見て話ができる環境がほしい。

### ■子育て、教育環境について

- ・子供たちの遊び場所を確保する必要がある。
- ・国道が危険でバスで通学している。安全な道が必要だ。
- ・子供たちの為に海とふれあいをさせたい。
- ・学校から海と山が同時に見えるのは強みである。
- ・海と家と学校の近さは伊里前の魅力である。子供が自由に行き来できるようにしたい。

### ■コミュニティ

- ・四季折々のイベントできるようにすれば良い。
- ・ここに生きている人は花火をあげたいと思っている。
- ・昔ながらの行事を復活させたい。

### ■安心安全な、まち

- ・安心安全な町に復興すべきが基本的な考えである。
- ・住民の安全、生命、財産を守ることが第一である。
- ・100年に1度でも、すぐに次の津波が来るかもしれない。
- ・通学が安全に出来るような道路にしてほしい。
- ・沿岸部は、地盤沈下しているので危険で、不安だ。嵩上げてほしい。

### ■漁業

- ・海から収入を得て来た漁業の町である。
- ・後継者をうまく育てる必要がある。
- ・漁師が頑張れるまちづくりをすべきである。
- ・護岸をつける前の船着き場構想を実現させたい。
- ・陸だけでなく、漁港の整備に早く手をつけてほしい。
- ・沿岸部の埋め立てはできるのか？
- ・漁業権とのからみを考慮して考えるべき。
- ・漁をした魚を売るだけでなく、付加価値をつけた生産、販売を考えて計画を考えるべき。

### ■商店街

- ・商店街は高台、インター、平成の森も踏まえて、国道からお客を引き入れることを考えている。
- ・店は人・物・金が集まって成立つので広域で考える。
- ・流通業が活性化することは、商店にとっても漁業にとっても良いことだ。
- ・商店も大切だが住民の利便性も考えてほしい。
- ・バスを止める場所が必要である。
- ・時間がかかると商工会として持ちこたえられない。
- ・商店街としては、防潮堤は必要である。
- ・買上げて町有地となれば商店街や駐車場を拡大する。

### ■周辺地域との関わり

- ・伊里前は歌津の中心(へそ)として考えるべきである。
- ・支所や銀行、郵便局がどこに配置されるのかが大切だ。
- ・伊里前だけでなく管の浜、柘沢が1つとなり、まちづくりをした方がよい。柘沢も含めて町全体を考えてほしい。
- ・他の地域との関係も考えたまちづくりをするべき。
- ・JRの山側の活用方法やガードの位置づけを検討すべき。

### ■観光、雇用の確保

- ・人が集まればお金が動くので、観光にもっと力を入れるべきである。
- ・都会の人が来なくなるまちづくりの為に考えたい。
- ・ストロー現象にさせず、都会の人を素通りさせない。
- ・三陸道開通後に歌津ICで降りてもらおう方法を考える。
- ・整備された道路から人を呼び込む方法を考える。
- ・若者の働く場所もつくりたい。
- ・雇用(収入)を確保し、人口流出を防ぐ。
- ・地域に根付く産業誘致の必要がある。
- ・震災特需が終わった時のことを考えて進める。

### ＜観光に活かすこと＞

- ・観光と漁業を結びつける。漁師民宿をつくる。体験漁業。
- ・フィッシングパークを整備する。釣り船を出し、釣った魚を食べられるようにする。
- ・地元の料理、珍しい食べ方を観光客に知ってもらおう。わかめしゃぶ、そば打ち等。
- ・自然の魅力を伝え、グリーンツーリズムで人を呼ぶ。
- ・鉄道を活かす。
- ・都会の人は疲れている。ゆったりできる場所にする。
- ・道の駅など町の核となる施設をつくる。

## 防潮堤、河川堤防、道路について

### ■防潮堤・河川堤防について

#### ＜防潮堤の必要性について＞

- ・作っても守るべき人がいない。避難道があれば十分。
- ・防潮堤で、守るべきものを守る必要がある。
- ・商店街としては、防潮堤は必要だが、高さは要検討。
- ・防潮堤を早く作ることを優先すべきだ。
- ・東風の浜(こちのはま)付近で防潮堤が切れている場所はどうするのか？防潮堤には穴を開けるべきではない。

#### ＜高さ8.7mについて＞

- ・高さ8.7mは変更できるのか？できなければ進まない。
- ・高さ8.7mが絶対なのがおかしい。高すぎる。
- ・8.7mを前提に話し合うのか、変更の余地はあるのか？
- ・防潮堤の高さはどの計画でも低い。安全とは言えない。
- ・高さも幅も現在の計画を飲まざるを得ないと思う。
- ・被災して国道に水が乗ったので、それを防ぐ高さがないと防潮堤の意味がない。

#### ＜河川堤防について＞

- ・水門方式にして、河川堤防の計画を止めてほしい。
- ・川に大きな堤防を作ると逆に危険な場所になる。
- ・河川堤防はコンクリートなのか？堤防の川側の法面はコンクリートでも、反対側は土の堤防にしてほしい。

### ■道路について

#### ＜道路の大切さについて＞

- ・大きな道路だけでは危険だ。生活道路の計画がわからずイメージできない。
- ・国道の計画は良い。
- ・安心安全な道を作らなければいけない。
- ・国道が危険でバスで通学している。安全な道が必要だ。
- ・立派な施設と共に、その施設迄の道路も重要である。
- ・高台に人を集めるために道路を通すことが大切だ。

#### ＜地区別の要望＞

- ・魚竜館の前に安心安全な道を通してほしい。
- ・寄木の児童が安全に学校に行けるようにしてほしい。
- ・集落から伊里前への連絡道路整備を要望したい。
- ・西光寺から国道につながる道路が重要である。
- ・柘沢は浸水域であり、嵩上げ等をしないと国道がまた寸断されるので考えてほしい。
- ・平成の森から国道に橋をかけたい。
- ・JRが早く計画を示してほしい。

## 進め方について

### ■スピード感、焦り

- ・防潮堤を早く作ることを優先すべきだ。
- ・漁港の整備に早く手をつけてほしい。
- ・時間がかかると商工会として持ちこたえられなくなる。
- ・嵩上げてほしいが、時間も費用もかかる。
- ・何でもいから早くしてほしい。
- ・今、住まいを一番に優先して考えたい。
- ・まずは生活の安定を図りたい。
- ・今迄以上に時間をかけても中心街になるようにしたい。

### ■土地の買い上げ

- ・土地の買い上げを早くしてほしい。現時点では、他人の土地をイメージしているだけである。
- ・誰も土地を譲らないのではないかな。用地問題が解決しないと進まない。
- ・買い上げられる土地の値段が安い。高くすれば土地の移動は早くなる。

### ■行政・関係機関に対して

- ・行政に柔軟な対応をしてほしい。非常事態なので特例でも使ってほしい。書類の手続きに時間がかかる。
- ・補助事業に頼っていていいのか。
- ・町長、議員、JAなどに町民の思いを伝えたい。

### ■今後の進め方

#### ＜話し合いの必要性＞

- ・住民が話し合う場が必要。意見を出していくべきだ。
- ・様々なビジョンを出し合って皆で話し合う。
- ・住民の声を反映されるようにする。
- ・子供たちの意見も取り入れて話し合いをするべきだ。
- ・一日も早く、国道・商店のあるべき姿を住民で考える。
- ・商業者と漁業者と一緒に計画を進めていきたい。
- ・前提条件を明確にして結論を出す議論をすべき。
- ・いろいろな意見があつてあたりまえである。
- ・実現性を頭に入れて進めないといけない。
- ・歩み寄れる。歩み寄る。
- ・後世に関わるので自分達が残したい町をつくるべきだ。
- ・早く一体感のある計画を作るべきだ。
- ・夢物語で終わらせないように。
- ・町をつくる上で順序を間違えないことは重要だ。

#### ＜決定プロセス＞

- ・住民が主導する意思決定のできる機関が必要である。
- ・歌津には、協議し決定する組織がない。